

茶ぐわくゆんたく



165

住宅街をかけ抜ける濁流

外国人住宅街は、畑や山林であった場所に、主に米軍人家族向けに建てられた住宅街で、宜野湾市には大謝名のほかに嘉数や大山・喜友名等に建てられ、現在もその面影を残しています。

左の写真は大謝名の外国人住宅街の中の通りです。車のバンパーが見えないくらいに水が流れています。これほどまでの水はどこから来たのでしょうか。

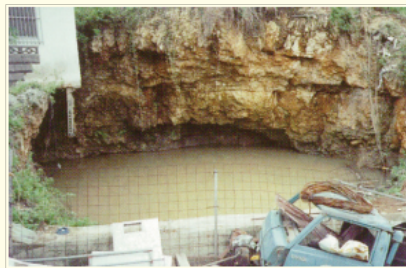
実は、大謝名の南には志真志川が流れていて、現在の嘉数中学校あたりから、地下へもぐっていました。この大



▲1973 (昭和48)年 大謝名
右奥の人の膝まで水がきています。



▲2017 (平成29)年
建物は、変わりましたが、ブロック塀などは変わらず。屋敷林は更に豊かになっています。



▲ドンドンガマ
洞穴の石灰岩が崩れる時の「ドンドン」という音から「ドンドンガマ」と呼ばれていました。

量の水は、志真志・我如古一帯の雨水が志真志川を流れて地下の洞穴を通り、大謝名のドンドンガマから溢れた水です。
現在は、排水路等の整備が進み、水は溢れ出てはいないよう、閑静な住宅街となっています。

【問合せ】
市立博物館 ☎8709317

ぎのわんの

歴史・文化遺産

を歩く

—其の35—

宜野湾市には、喜友名泉、森の川などの貴重な建造物や史跡、獅子舞やスンサーミー、綱引きといった無形民俗文化財も数多くあります。このような市内の文化財の魅力を市内外に、様々な年代の方に発信していくことを目的に活動している「宜野湾市文化財ガイド」について紹介します。

文化財ガイドになるためには：

文化課の主催するガイド養成講座を受講し、宜野湾市の歴史・文化に関する知識を問う試験、実際にガイドを行う実地試験に合格する必要があります。平成16年度に1期生、平成27年度に2期生を養成しました。



▲市民へ市の歴史文化を説明する文化財ガイド。

これまでの活動内容紹介

文化財ガイドのうち、1期生の有志で「宜野湾市文化財ガイドの会(通称：察度の会)」を平成19年に立ち上げました。

「察度の会」の由来は、宜野湾市が沖縄の大航海時代の基礎を築いたと言われる察度の出身地であることにちなんでいます。語呂合わせにはなりますが、3月10日を「察度の日」と独自に認定して、市内にある森の川を始めとした察度に関連する文化財巡りを、これまで6回開催しました。

さて、12月に行われました文化課が主催の大山をテーマにした「イガルーシマ文化財教室」の野外講座でも、文化財の紹介をしています。

この他にも、普天間第二小学校と連携した喜友名区文化財巡りを始めとして、市内の各団体様からも依頼をいただき、地域の文化財を案内しています。ぜひ、ご活用ください！

地域の文化財案内プランをさらに充実させるとともに、平成30年度からは「察度の会」独自で主催する講演会や市内外の文化財見学会も企画しています。

何かを始めるには、最適な1月。健康づくりを兼ねて地域を文化財ガイドと一緒に散策をしてみませんか。

【問合せ】文化課 8934430